

# まず円満な家庭づくり

## リーダーに人を得て

とかく活動がにぶい、眠っているといわれる公民館にも、なかには地味で板についた活動がなされているものがあります。

市内にある部落公民館は百八を数えています。そのなかの一つ、三和の片山公民館をたずね、その実態を関係者の人たちから聞き、眠れる公民館という汚名をなくする糧とします。

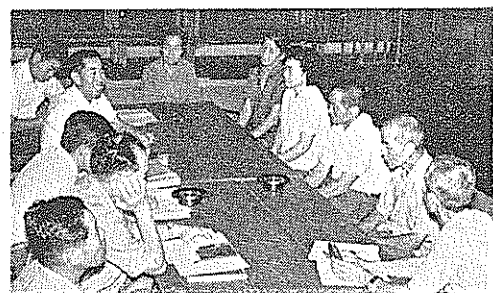
# 片山公民館 活動記

社会を明るくするための公民館活動には、人を得ることが大切だといわれていますが、片山公民館はその人を得て活発な活動がなされています。

それは館長さんにその人を得ているということ。地元の人たちはおらが館長は一番よい。「地区民のためには犠牲となり、先頭にたって指導してくれませう。その姿には頭が下がります。」とこぞって館長の利岡先生の人となりを語ってくれました。

「それに公民館の掃除もほとんど毎日のように館長一人がやっております。このようにいつもきれいで、有難いことです。」

とそれぞれ利岡館長のよき指導者であることをほこりにし、信頼し合った心のふれ合いの美しさが、明るい公民館作りをプラスしているようです。



てゆき当り式ではなく、なんといつもみんなが集まり、話し合いをもつことが大切だということ。月一回は必ず集会をもちあひのつながりをもつことにしています。

その会を望月会といい、月のある晩に開かれ講話とか、映画会とか教養と部落の話し合いや、親睦の座に当たっています。

とくに力を入れて行なっている行事は、地区民によるこぼれである農繁期の共同炊事、明るい家庭作りになっていく親子読書会、みんなで楽しく遊ぶ年三回の公休日、社会を美しくする花いっぱい運動などといわれています。

▼農繁期の共同炊事は毎年七月、八月の十二日間実施されています。

す。安くて栄養のある共同炊事の食費は39年度で、一食分三十八円二十五銭となり、市の平均の四十三円五十六銭より安くでき、農家の人たちによるこぼれられています。

▼親子読書会は、こどもが毎日二十分ぐらい母のそばで声をだして本を読み、終って母子の間に楽しい話し合いをします。ただそれだけです。この間に母と子の愛の血がかよひ、心のふれ合いから……。

▼不良化と非行の防止。勉強に自覚ができればおもしろくなる。▼頭脳が鍛練されて頭がよくなる。▼円満な家庭がつくられ、美しい情操がわいてくる。

などという利点があり、しかも毎日つづけることで根気強くなります。公民館ではこの読書会を奨励するため、毎月こどもむきの図書貸出しをしています。

▼公休日は月一回にする目標をもっています。とりあえず年三回の公休日を決め、その日は家庭閉鎖の日とし、また部落全体の慰安の日として一日慰安旅行なども行なっています。

▼花いっぱい運動は四季それぞれ

の花のたねや、苗をその時期にくばり、家庭を花で美しく飾ることにしています。

ほかの公民館にすめてよいものは、「なんといっても親子読書会と、公休日です。」と副館長の松本さんはいひ、「これによって話し合いの場がもたれ、家庭や、部落のなかの和ができて一石何鳥にもあたいます。」と、その効能を高く評価していました。

そのほかこの公民館で行なっている行事はつぎのようなものです。

▼俳句会 毎月一回開き、余暇を有効に生かし、情操を高めるようにしています。

▼図書貸出し 文化の向上を図り、趣味を豊かにするため、現在三百五十冊の図書の貸出しをしています。

▼環境衛生 婦人の人々を中心にして環境衛生のため努力しています。

▼祭典 祭典を区民全体のものとし、かつ諸費を節約し、生活を

# 広めたい 親子読書会と公休日

「なんといっても親子読書会と、公休日です。」と副館長の松本さんはいひ、「これによって話し合いの場がもたれ、家庭や、部落のなかの和ができて一石何鳥にもあたいます。」と、その効能を高く評価していました。

そのほかこの公民館で行なっている行事はつぎのようなものです。

▼俳句会 毎月一回開き、余暇を有効に生かし、情操を高めるようにしています。

▼図書貸出し 文化の向上を図り、趣味を豊かにするため、現在三百五十冊の図書の貸出しをしています。

▼環境衛生 婦人の人々を中心にして環境衛生のため努力しています。

▼祭典 祭典を区民全体のものとし、かつ諸費を節約し、生活を

# 部落

公民館は、副館長に男、女二人と、運営委員十二人、事業部に教養、産業、婦人、青年、和楽の部会を持っています。

「公民館の活動には骨をたなければ」といふ館長の語るところによれば、年四回の運営委員会でそのアウトラインを決め、けっし

とくに力を入れて行なっている行事は、地区民によるこぼれである農繁期の共同炊事、明るい家庭作りになっていく親子読書会、みんなで楽しく遊ぶ年三回の公休日、社会を美しくする花いっぱい運動などといわれています。

▼農繁期の共同炊事は毎年七月、八月の十二日間実施されています。

▼祭典 祭典を区民全体のものとし、かつ諸費を節約し、生活を

# く咲く花

## 現地ルポ

語る人

- 利岡 富次 (公民館長)
- 松木 正男 (副館長)
- 松木 三子 (ラブラ部長)
- 内 福馬 (老人クラブ)
- 竹 村 雪子 (老人クラブ)
- 内 真猪 (老人クラブ)

この公民館では老人クラブの活躍もめざましく、会員の人が元気に地域社会のために活動しているようです。それでは老人クラブの活動を聞いてみましょう。

「最初は個人の家ではそぼそやっていた。長いきをするだけでなく、年がたってからの楽しみをするだけではない。社会のためにつくるための修養と、徳をつまなげればなりません。」となかなかきびしいものがありました。



一日中学生 (香長中にて)

「アウキ」を贈ったり、地区の人たちのすべてがたのしく、小、中学校へ

「公民館活動もかかしとちがって若い人たちがすくなく、いても仕事に追われ、夜るだけしかない」といふことで、老人クラブへの期待が大きいようです。それだけ老人が若返ったといえます。

「とくに窪内さんのお宅では、ご主人が歌えば、息子さんも歌い、奥さんと嫁さんが踊るといったぐあいで家庭一同が歌ってはやす、実に円満なごやかな家庭づくりができています。」

「若返りのための健康講座、血圧の測定(年四回)、幻燈会、年三回の親睦会、年

話し合いの最後に市の当局に対して、地区民の望んでいることを書いてみました。

# おとしよりも勉強

## 若く元気で社会奉仕に

老人クラブは、会長の利岡先生の類のない世話により鶴亀会と名付けられ、いまでは公民館でのた

とその方針を決め、実行に移してあり、なごやかな本心に心からみんながたのしくなれるあつまりですと、あつまっている人たちは話してくれました。

二、三回の社会見学。時代に取り残されないようにつとめているそうです。

「まさきやりで仕事をやっている。おれは年寄りではない。まだまだ若いんだ。」

# 無責任な

## 市政から脱皮を

「資金面などで地元にかけている経費が多い。例えば市道にしても土地を提供しなければいけないというのはおかしいものです。なにかいえば金を出したらやってくれるではありません。無責任な市政といえます。」

「いまは出されていない公民館の補助はなんとかならないものでしょうか。活動していない公民館があるからというのであれば、活動している公民館のことを考えてくれたことはあるでし